

暮らしを言語化する

梶山女学園大学人間関係学部

谷口功（地域社会学）

taniguchi-i@sugiyama-u.ac.jp

0. 自己開示

地元・在所：？

居住歴：京都、滋賀、愛知（名古屋・豊橋・豊田・日進） * 墓は鳥取

専攻：社会学 * 社会の秩序はいかにして可能か

キーワード：まちづくり、コミュニティ、協働行政、市民活動、ソーシャルビジネス

旭とのかかわり：地区計画策定、木の駅

1. 制度の言語化

* 敷島は、「共同体」ではなく「協働体（共働体）」！

（1）ふたつの「きょうどう」

- ・「共同」…（community：一定の地域における生活から派生する共属意識）
- ・「協働」…（associate：特定の関心の追求と目的達成のための計画的結合）
* 労働者協同組合法（2022.10）…「協同（cooperative：自由な意志の契約）」
→関係人口・関係自治

（2）協働の本質

- ・線引き…「できること／やるべきこと」「できないこと／やるべきでないこと」の整理
- ・知恵を出す…「できない」を「できる」にするための知恵を出すこと
→できないことを語り、カイゼンを語る
→市民の役割・責任 町内会の役割・責任 行政の役割・責任

（3）「市民」になる

- ・市民…近代社会を構成する自律的個人。政治参加の主体となる者。
「Citizen」の訳語。福沢諭吉が「社会を担う主体的な個人」の成熟を期待して「市民」と訳す。

2. 「つながり」の言語化

(1) 「助けて」と言える

- ・「助けて」と発することが自律・自立の始まり
- ・「助けて」のシグナルを見逃さない

(2) 貨幣の交換

- ・貨幣を集めることを目的化しない→等価交換の再認識
- ・善意、心地よさ（の経済）→信頼と責任

(3) 愛を語る

- ・場所への愛（トポフィリア）
 - We love とよた（旭・敷島）
 - 「暮らしの作法」

3. 「私」を言語化する

(1) 「私」を語る

〈ストーリー〉物語の筋書きや内容を指す。主人公や登場人物を中心に起承転結が展開されるため、聞き手はもちろん語り手も介在しない。すでに完結している。

〈ナラティブ〉語り手（私）自身が紡いでいく物語とされている。主人公は語り手となる私自身であり、物語は変化し続け、終わりが存在しない。→「共感」を生み出す

(2) 「私」の在るところ

- ・場所の物語（ストーリー）を私の物語（ナラティブ）に重ね合わせていく